

各関係機関の長 殿

鹿児島県病虫害防除所長

令和7年度病虫害発生予察情報について

このことについて、発生予報第8号（11月）を発表したので送付します。

鹿児島県病虫害防除所

〒899-3401
南さつま市金峰町大野 2200
TEL:099-245-1081（代表）
099-245-1157（直通）
FAX:099-245-1149



ホームページアドレス：<https://www.pref.kagoshima.jp/ag13/kiad/boujosho/index.html>

メールアドレス：nousou-boujo@pref.kagoshima.lg.jp

農薬の安全使用に努めましょう

農薬安全使用五つの柱

- | | |
|--------------|---|
| 1. 使用する人の安全 | 使用者自身の健康管理，安全使用 |
| 2. 作物に対する安全 | 適期，適正防除で薬害防止 |
| 3. 農産物に対する安全 | 消費者へ安全な農産物を供給
（農薬安全使用基準の遵守） |
| 4. 環境に対する安全 | 周辺環境への影響防止
（周辺住民等への危被害防止）
（河川，湖沼，海等への汚染防止）
（養蚕，養蜂等への危被害防止） |
| 5. 保管管理の安全 | 保管管理の徹底で事故防止 |

農薬ラベルを確認しましょう

農薬の飛散（ドリフト）にも注意しましょう

令和7年度 病虫害発生予報 第8号

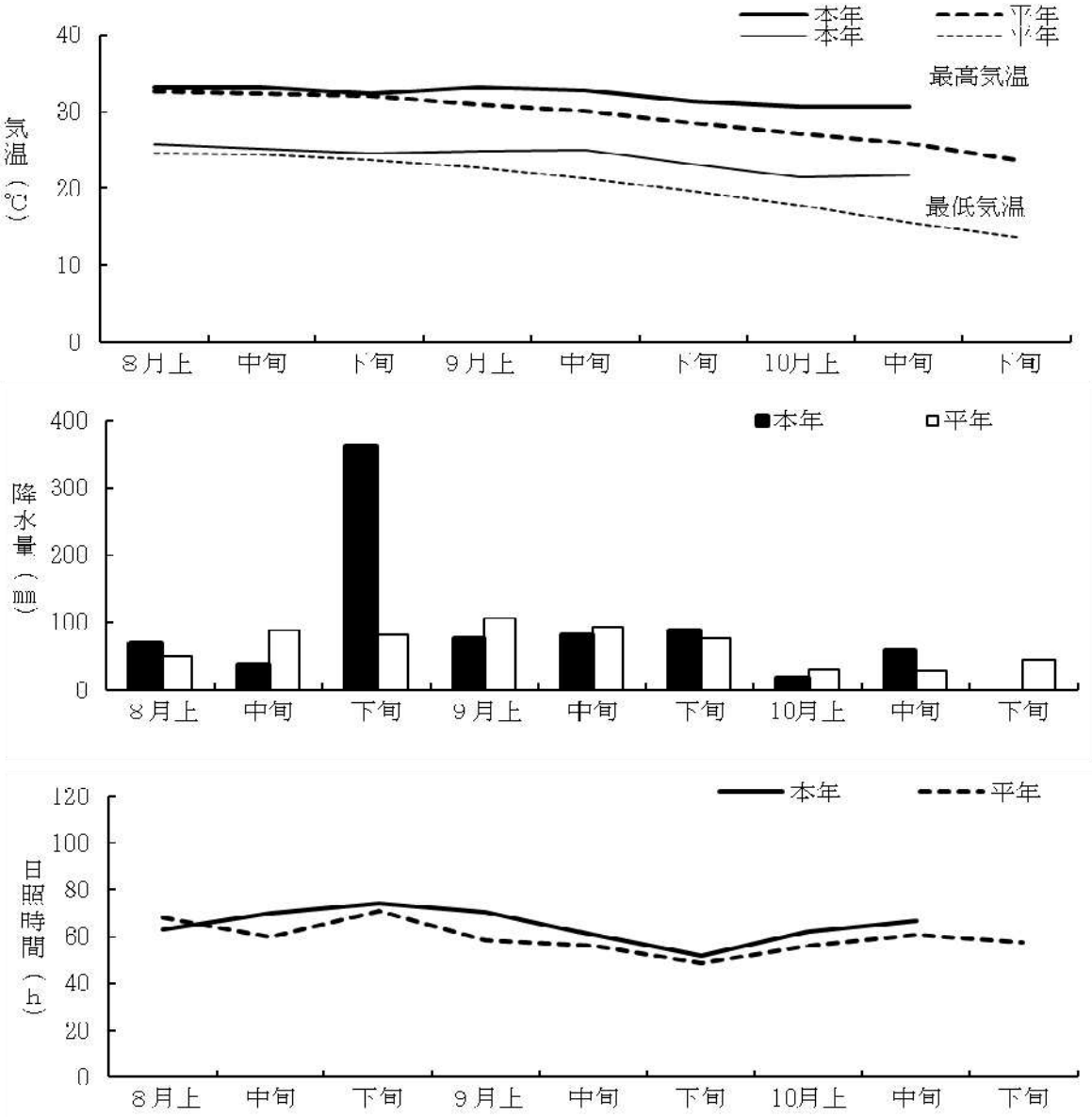
令和7年10月30日
鹿児島県病虫害防除所

【気 象 概 況】

I. 向こう1か月の予報（10月25日～11月24日） 令和7年10月23日 鹿児島地方気象台 発表

		低い(少ない)	平 年 並	高い(多い)	
気 温	九 州 南 部	1 0	3 0	6 0	九州南部，奄美ともに気温は高く，降水量は平年並か多い。日照時間は九州南部は平年並か少なく，奄美は少ない見込み。
	奄 美 地 方	1 0	1 0	8 0	
降 水 量	九 州 南 部	2 0	4 0	4 0	
	奄 美 地 方	2 0	4 0	4 0	
日照時間	九 州 南 部	4 0	4 0	2 0	
	奄 美 地 方	5 0	3 0	2 0	

II. 8～10月の気象情報（鹿児島地方気象台 観測点：加世田）



【 病 害 虫 発 生 予 報 の 概 要 】

作 物		病 害 虫 名	発 生 量	
			現 況	予 報
野 菜	キュウリ	うどんこ病	やや少	やや少
		アザミウマ類	並	やや多
		コナジラミ類	やや多	多
	トマト	コナジラミ類	やや多	多
	ピーマン	アザミウマ類	やや多	多
		タバココナジラミ	並	やや多
	イチゴ	うどんこ病	やや多	やや多
		ハダニ類	やや多	多
		アザミウマ類	並	やや多
	エンドウ類	うどんこ病	並	並
		ハモグリバエ類	並	やや多
		アザミウマ類	並	やや多
花 き	キ ク	ハダニ類（県本土：施設）	少	やや少
		アザミウマ類（県本土：施設）	少	やや少
		〃（奄美地域：露地）	少	やや少
野 菜・ 花き 共通	キャベツ等アブラナ科野菜，エンドウ類，トマト，ピーマン，イチゴ，キク等	ハスモンヨトウ	やや少～多	多
	キャベツ，エンドウ類，キク等	シロイチモジヨトウ	並～やや多	やや多
果 樹	カンキツ	かいよう病（果実）（県本土・熊毛地域）	多	多
		〃（奄美地域）	並	やや多
		黒 点 病（県本土・熊毛地域）	多	多
		〃（奄美地域）	並	並
		ミカンハダニ（県本土・熊毛地域）	やや多	多
		〃（奄美地域）	多	多
		果実吸蛾類（県本土・熊毛地域）	やや多	多
		〃（奄美地域）	並	やや多
茶 樹	チャ	カンザワハダニ	並	並

【病害虫発生予報】

I. 普通作物

防除に関する今月の留意事項



1. サツマイモ（令和7年度技術情報第18号，令和7年10月3日付参照）

（1）サツマイモ基腐病

発生が見られたほ場では，次年度の発病リスクを軽減するために，以下の防除対策を徹底する。

＜本ば，種いもほ場＞

（収穫後の残さ対策）

ア 屑いもやしよ梗等の残さは，収穫後速やかにすき込みを行う。

イ すき込んだ後も定期的（1回/月程度）に耕耘して，残さの分解を促す。

ウ 本病が多発し，塊根被害が目立ったほ場では，次作はサツマイモ以外を2年程度輪作するか休耕する。

サツマイモ基腐病の生態と防除に関する詳しい情報は，鹿児島県（https://www.pref.kagoshima.jp/ag06/documents/documents/74570_20240315133011-1.pdf），農研機構（https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/stem_blight_and_storage_tuber_rot_of_sweetpotator04.pdf，https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/motogusarebyo_hatsubyorisuku_tei_gen_manial.pdf）をご覧ください。



鹿児島県

サツマイモ基腐病防除
対策マニュアル（第4版）
令和6年3月改訂



農研機構

サツマイモ基腐病の
発生生態と防除対策
（令和4年度版）



農研機構

「本圃におけるサツマイモ基腐病
発病リスク低減技術」マニュアル
令和7年3月

2. サトウキビ

（1）カンシャコバネナガカメムシ

ア 熊毛地域の一部新植夏植ほ場において本種が多発しており，吸汁痕数の増加及び葉の黄化がみられる場合は，臨時的な農薬防除を検討する。

イ 第三世代虫数及び吸汁痕の発生が例年より多い地域では，次年度の第一世代幼虫の発生も増加する恐れがあるため，次年度の防除適期（第一世代幼虫2～3齢期）を失しないよう特に注意する。

ウ 本年は向こう1か月の気温が平年より高いことが予想され，本種の第三世代の虫数も例年より増加する可能性が考えられる。

エ 本種は年2～3回発生し，成虫ないし卵で越冬する。第三世代は9～10月頃に発生し，秋から冬に産み付けられた卵が翌春にふ化し，翌年の第一世代となる。

Ⅱ. 野 菜

1. キュウリ

(1) うどんこ病

ア 予報内容

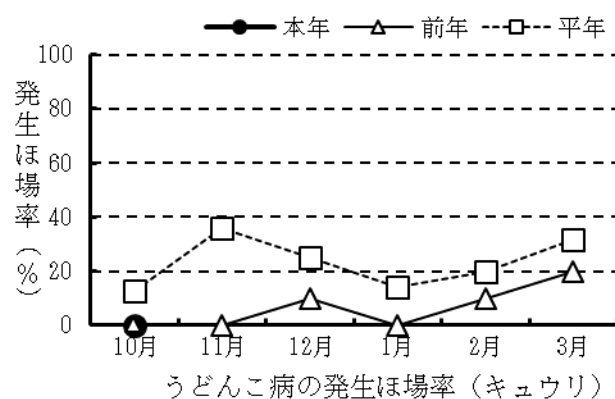
- (ア) 発生地域 県本土
(イ) 対象作型 促成栽培
(ウ) 発生量 やや少

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや少
発生ほ場率 0 % (平成 13 %)
：やや低い

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 多発すると防除が困難になるので、ハウス内の見回りをを行い、早期発見と初期防除に努める。
(イ) 発病葉は早めに除去し、ハウス外に持ち出して処分する。
(ウ) 農薬は下位葉や葉裏に十分かかるよう散布する。
(エ) 作用性の異なる農薬 (RAC コード参照) のローテーション散布を行う。



(2) アザミウマ類

ア 予報内容

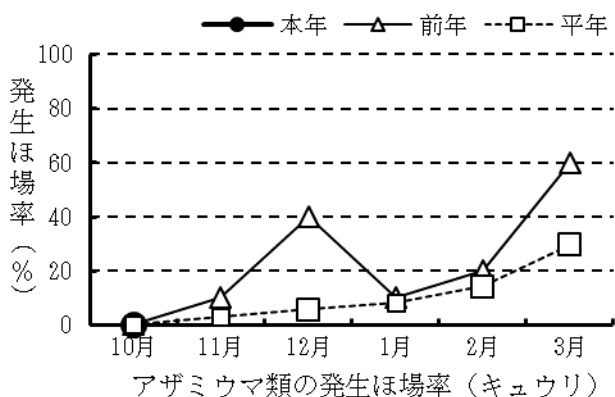
- (ア) 発生地域 県本土
(イ) 対象作型 促成栽培
(ウ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：並
発生ほ場率 0 % (平成 0 %) : 並
(イ) 気象予報
気温：高い (+)

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) キュウリ黄化えそ病 (M Y S V) を媒介する。ハウス開口部 (サイド等) 等に粘着トラップを設置し、早期発見と早期防除に努める。
(イ) 天敵を放飼するほ場では、放飼前の密度がその後の防除効果に影響するため、防除を徹底する。導入後は天敵への影響を考慮した体系防除を行う。
(ウ) 作用性の異なる農薬 (RAC コード参照) のローテーション散布に努める。



(3) コナジラミ類

ア 予報内容

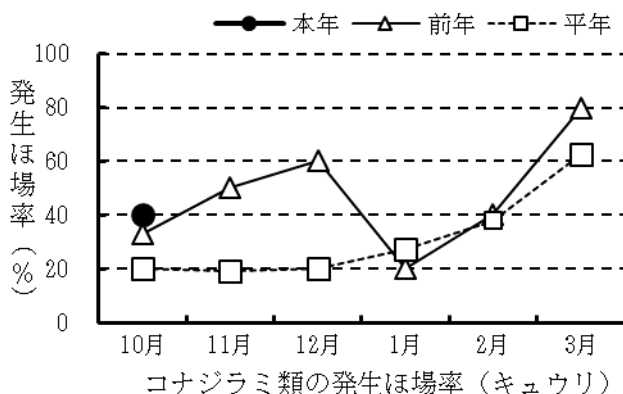
- (ア) 発生地域 県本土
(イ) 対象作型 促成栽培
(ウ) 発生量 多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや多
発生ほ場率 40 % (平成 20 %)
：やや高い

(イ) 気象予報

気温：高い (+)



ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) キュウリの退緑黄化病（CCYV）を媒介する。生育初期に本病が発生すると被害が大きくなるので、黄色粘着トラップを設置して早期発見と早期防除に努める。
- (イ) 天敵を放飼するほ場では、放飼前の密度がその後の防除効果に影響するため、防除を徹底する。導入後は天敵への影響を考慮した体系防除を行う。
- (ウ) 作用性の異なる農薬（RACコード参照）のローテーション散布に努める。

2. トマト

(1) コナジラミ類（令和6年度技術情報第25号、12月26日付け参照）

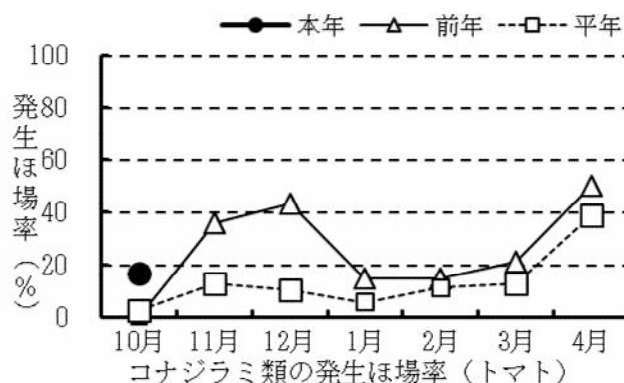


ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや多
発生ほ場率 17%（平成2%）
：高い
発生程度は低い（－）
- (イ) 気象予報
気温：高い（＋）



ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) トマト黄化葉巻病（TYLCV）を媒介する。生育初期に本病が発生すると被害が大きくなるので、黄色粘着トラップを設置して早期発見と早期防除に努める。
- (イ) 天敵を放飼するほ場では、放飼前の密度がその後の防除効果に影響するため、防除を徹底する。導入後は天敵への影響を考慮した体系防除を行う。
- (ウ) 作用性の異なる農薬（RACコード参照）のローテーション散布に努める。

3. ピーマン

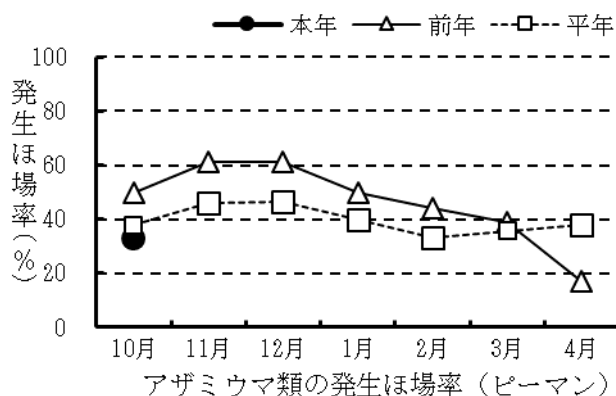
(1) アザミウマ類

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 発生量 多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや多
発生ほ場率 33%（平成38%）：並
発生程度の高いほ場を認めた（＋）
- (イ) 気象予報
気温：高い（＋）



ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) ハウス開口部（サイド等）等に粘着トラップを設置し、早期発見と早期防除に努める。
- (イ) 花や新芽の中など農薬のかかりにくい場所に生息するので、散布は丁寧に行う。
- (ウ) 天敵を放飼するほ場では、放飼前の密度がその後の防除効果に影響するため、防除を徹底する。導入後は天敵への影響を考慮した体系防除を行う。
- (エ) 作用性の異なる農薬（RACコード参照）のローテーション散布に努める。

(2) タバココナジラミ

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

(イ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：並

発生ほ場率 61% (平年 57%) : 並

(イ) 気象予報

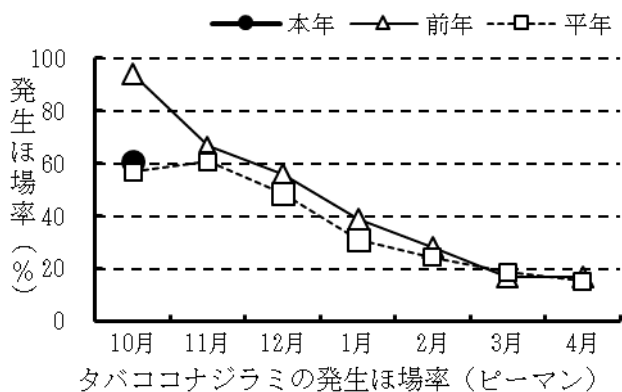
気温：高い (+)

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 多発するとすす病を発生させるので、黄色粘着トラップを設置して早期発見と早期防除に努める。

(イ) 天敵を放飼するほ場では、放飼前の密度がその後の防除効果に影響するため、防除を徹底する。導入後は天敵への影響を考慮した体系防除を行う。

(ウ) 作用性の異なる農薬 (RAC コード参照) のローテーション散布に努める。



4. イチゴ

(1) うどんこ病

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

(イ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：やや多

発生ほ場率 18% (平年 6%)

: 高い

発生程度は低い (-)

ウ 防除上注意すべき事項

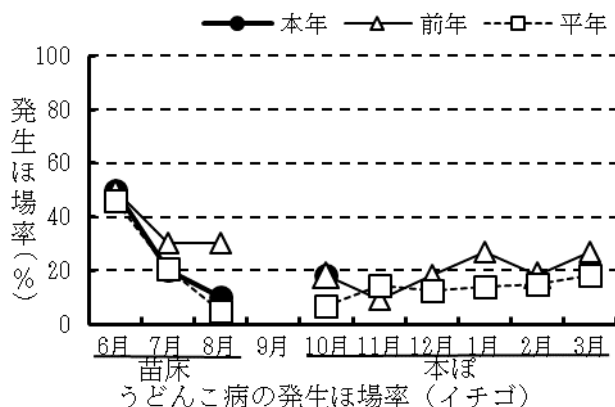
(ア) 防除は予防に重点を置く。農薬は葉裏に十分かかるよう散布する。

(イ) 上位葉に発生しやすいため、葉裏をよく観察し早期発見と初期防除に努める。

(ウ) 作用性の異なる農薬 (RAC コード参照) のローテーション散布を行う。

(エ) 発病葉などは早めに除去し、施設から持ち出して処分する。

(オ) 窒素肥料の過多や葉が混み合うと多発しやすくなるので、適切な栽培管理を行う。



(2) ハダニ類 (令和7年度技術情報第10号, 7月25日付け参照)



ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

(イ) 発生量 多

イ 予報の根拠

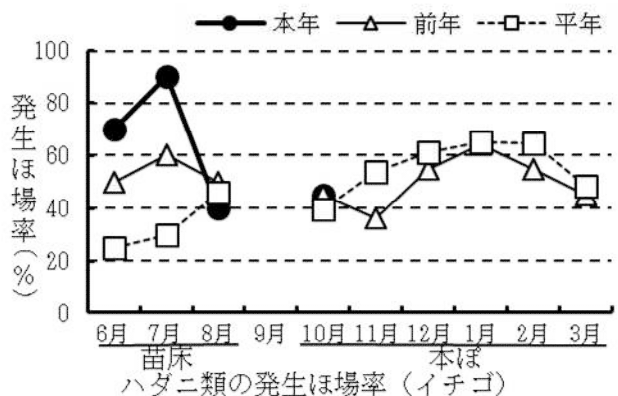
(ア) 調査結果 発生量：やや多

発生ほ場率 45% (平年 39%) : 並

発生程度の高いほ場を認めた (+)

(イ) 気象予報

気温：高い (+)



ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 天敵を放飼するほ場では、放飼前の密度がその後の防除効果に影響するため、防除を徹底する。導入後は天敵への影響を考慮した体系防除を行う。
- (イ) 農薬の防除効果を高めるため、下葉かきを行ってから葉裏にかかるよう散布する。
- (ウ) 農薬によっては感受性が低下しているので、散布後は防除効果を確認する
- (エ) 作用性の異なる農薬（RAC コード参照）のローテーション散布に努める。
- (オ) 農薬によっては、天敵やミツバチに影響があるため薬剤選定に注意する。

(3) アザミウマ類（令和7年度技術情報第11号，7月31日付け参照）

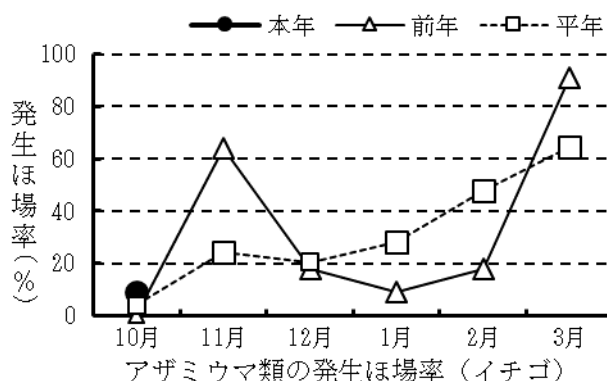


ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：並
発生ほ場率9%（平年4%）
：やや高い
発生程度は低い（－）
- (イ) 気象予報
気温：高い（＋）



ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) ハウス開口部（サイド等）等に粘着トラップを設置し、早期発見と早期防除に努める。
- (イ) 花や新芽の中など農薬のかかりにくい場所に生息するので、散布は丁寧に行う。
- (ウ) 天敵を放飼するほ場では、放飼前の密度がその後の防除効果に影響するため、防除を徹底する。導入後は天敵への影響を考慮した体系防除を行う。
- (エ) 作用性の異なる農薬（RAC コード参照）のローテーション散布に努める。
- (オ) 農薬によっては、天敵やミツバチに影響があるため薬剤選定に注意する。

5. エンドウ類

(1) うどんこ病

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

(イ) 発生量 並

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：並

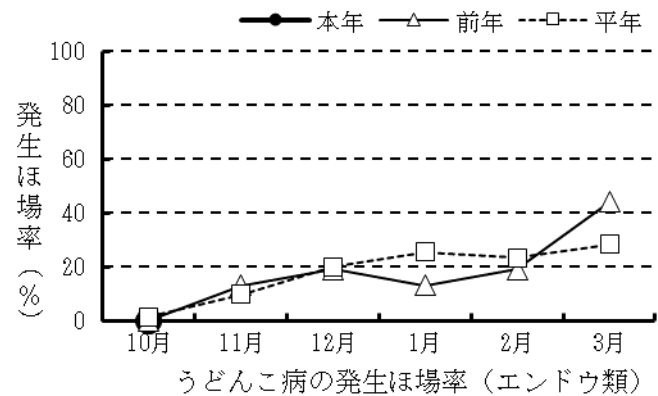
発生ほ場率 0 % (平年 1 %)

：並

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 多発するとごま症の発生につながるので、発生を認めたら直ちに防除を行う。

(イ) 作用性の異なる農薬 (RAC コード参照) のローテーション散布を行う。



(2) ハモグリバエ類

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

(イ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：並

発生ほ場率 13 % (平年 17 %)

：並

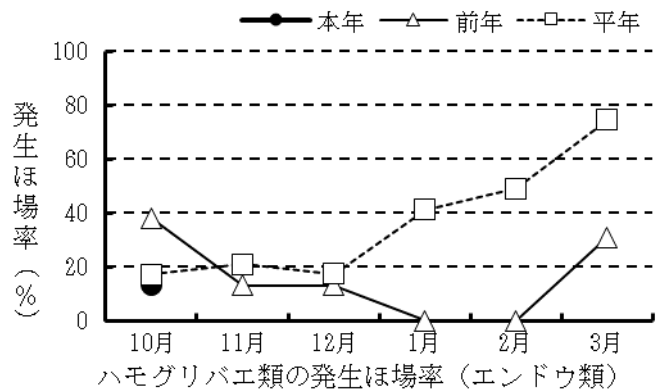
(イ) 気象予報

気温：高い (+)

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 多発してからの防除は困難となるので、早期防除に努める。

(イ) 作用性の異なる農薬 (RAC コード参照) のローテーション散布を行う。



(3) アザミウマ類

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

(イ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：並

発生ほ場率 0 % (平年 1 %)

：並

(イ) 気象予報

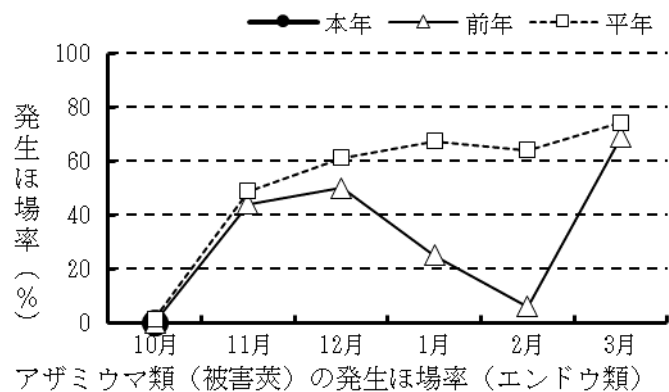
気温：高い (+)

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) エンドウ類で主に発生する種類はハナアザミウマである。若莢に産卵し、「白ぶくれ莢」となるので、若莢の被害や青色粘着トラップへの誘殺から発生状況を把握し、早期防除に努める。

(イ) 農薬のかかりにくい花卉の奥や若莢に寄生するので、丁寧な農薬散布に努める。

(ウ) 作用性の異なる農薬 (RAC コード参照) のローテーション散布を行う。



防除に関する今月の留意事項

1. トマトキバガ

- (1) 本県では、フェロモントラップの誘殺数が年々増加傾向にある（表1）。令和7年の出水市のトラップでは、令和5年の10月と比較すると約30倍に増加している。トマト等での発生は今のところ認められていないが、他県では発生が認められている。
- (2) 防除対策として、施設栽培ではハウスの開口部や換気部を1mm以下の目合いのネットで被覆し、ハウス内への侵入防止に努める。
- (3) 本種の寄主植物はトマト、ナス、ピーマンおよびバレイショなどのナス科植物や、マメ科のインゲンマメ等である。トマトでの発生（写真参照）は、葉では内部に幼虫が潜り込んで食害し、葉肉内に孔道が形成される。食害部分は表面のみ残して薄皮状になり、白～褐変した外観となる。果実では、幼虫が穿孔侵入して内部組織を食害するため、果実表面に数mm程度の穿孔痕が生じるとともに、食害部分の腐敗が生じ、果実品質が著しく低下する。
- (4) 本種のトマト等での発生が疑われる場合は、病害虫防除所（099-245-1157）に連絡する。

表1 フェロモントラップによる誘殺状況（令和5～7年）

調査品目	地点	R 5 年				R 6 年						R 7 年					
		10月	11月	12月		1月	2月	3月	4月	11月	12月		1月	2月	3月	4月	10月 ¹⁾
ピーマン	志布志市	No. 1	-	1	0	0	1	0	3	23	3	1	0	0	1	27	
		No. 2	-	0	0	0	0	0	0	13	1	0	0	0	0	33	
	東串良町	No. 1	-	1	1	1	0	0	0	10	5	0	0	0	0	15	
		No. 2	-	6	2	1	0	0	0	9	0	0	1	0	2	2	
トマト	霧島市	No. 1	-	5	2	0	2	2	6	14	2	0	0	0	0	0	
		No. 2	-	1	1	0	0	1	2	8	2	0	0	0	0	27	
	出水市	No. 1 ²⁾	5	19	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	158	
バレイショ	長島町	No. 1	-	-	-	-	1	0	5	-	-	-	0	0	15	-	
計			5	33	8	2	4	3	16	77	13	1	1	0	18	262	

注1) 調査間隔：調査月の前月中旬にトラップを設置し、約1カ月後に回収して誘殺数を調査

例 令和7年10月：9月中旬～10月中旬の誘殺数

注2) 令和5年10月～12月：病理昆虫研究室によるトラップ調査結果を基に集計

（参考）トマトキバガのトマトでの被害状況等について



幼虫による葉の食害



幼虫による果実の食害

Ⅲ. 花き

1. キク

(1) ハダニ類

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土（施設）

(イ) 発生量 やや少

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：少

発生ほ場率 20%（平年 35%）：低い

(イ) 気象予報

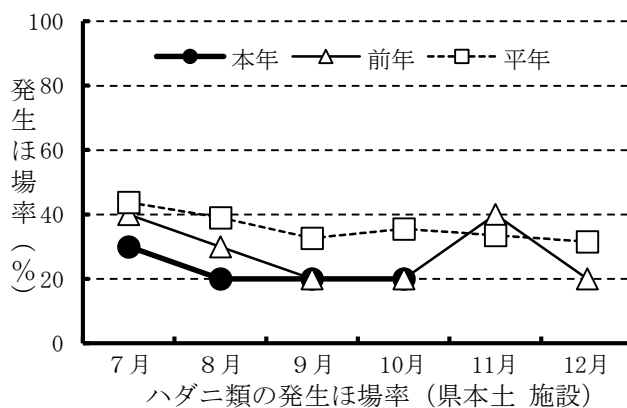
気温：高い（+）

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 出入口や前作での発生場所近く等でスポット状に発生する場合が多いので、ほ場全体をよく見回り、早期発見と早期防除に努める。

(イ) 薬液は葉裏までよくかかるように散布する。

(ウ) 作用性の異なる農薬（RAC コード参照）のローテーション散布を行う。



(2) アザミウマ類

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県内全域

(イ) 発生量 並

県本土（施設） やや少

奄美地域（露地） やや少

イ 予報の根拠

< 県本土（施設） >

(ア) 調査結果 発生量：少

発生ほ場率 10%（平年 40%）：低い

(イ) 気象予報

気温：高い（+）

< 奄美地域（露地） >

(ア) 調査結果 発生量：少

発生ほ場率 0%（平年 40%）：低い

(イ) 気象予報

気温：高い（+）

ウ 防除上注意すべき事項

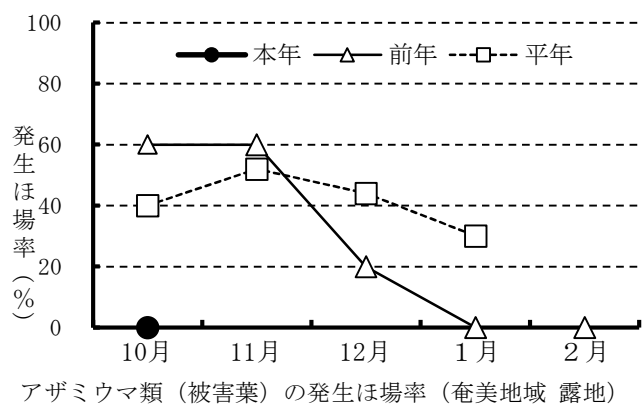
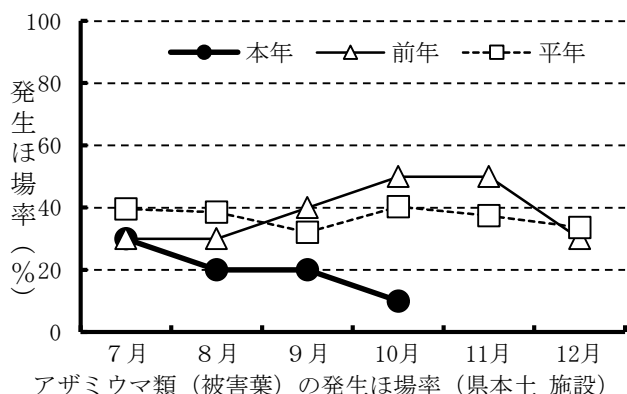
(ア) アザミウマ類の発生動向を把握する

には、出入口や開口部付近での青色粘着シートの設置が有効である。

(イ) 作用性の異なる農薬（RAC コード参照）のローテーション散布を行う。

(ウ) アザミウマ類はキクえそ病（TSWV），キク茎えそ病（CSNV）を媒介するので、ほ場への侵入防止と早期発見及び早期防除に努める。

(エ) クロゲハナアザミウマの発生が認められる場合、本種は主に中下位葉に寄生しているため、薬液は中下位葉の葉裏までかかるよう丁寧に散布する。



IV. 野菜・花き共通

(1) ハスモンヨトウ

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県内全域

(イ) 対象作物 キャベツ等アブラナ科野菜、エンドウ類、トマト、ピーマン、イチゴ、キク等

(ウ) 発生量 多

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：やや少～多

作物名	発生ほ場率 (%)			総合概評
	本年	前年	平年	
キャベツ	33	25	22	多
ダイコン	70	31	-	多*
ハクサイ	63	50	-	やや多*
エンドウ類	50	75	23	やや多
トマト	0	0	5	並
ピーマン	17	6	8	やや多
イチゴ	45	36	28	多
キク	0	20	6	やや少

*ダイコンは令和5年度から、ハクサイは令和6年度から調査のため、前年比による概評を記載

9～10月のフェロモントラップ誘殺数：並～やや多

南さつま市		鹿屋市
発生量	やや多	並*
誘殺数（9月5半旬～10月4半旬）	10,363頭（平年9,597頭）	18,495頭（前年17,677頭）

*鹿屋市は令和6年度から調査地点を変更したため、前年比による概評を記載

(イ) 気象予報

気温：高い（+）

ウ 防除上注意すべき事項

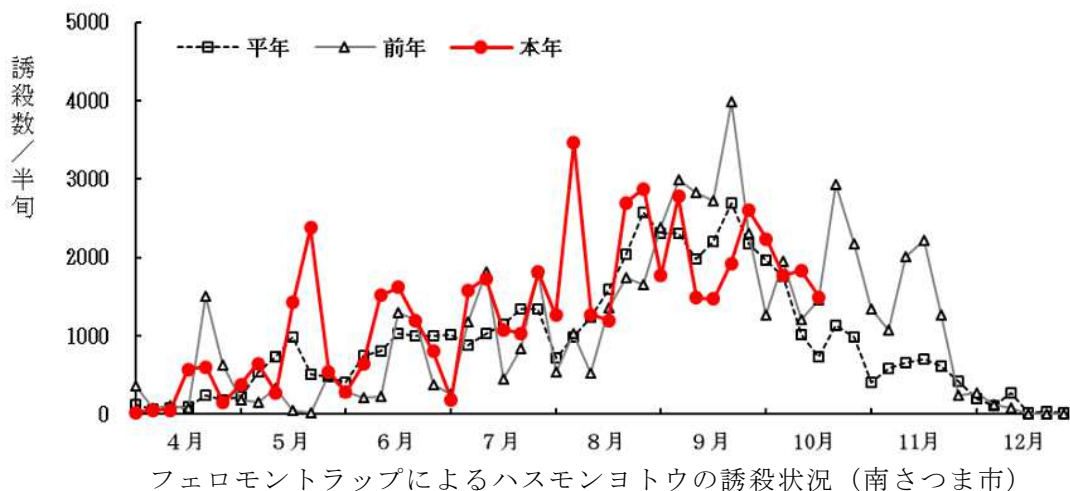
(ア) 発生状況は、作物や各地域で異なるため、ほ場を見回り、幼虫の発生状況を確認する。

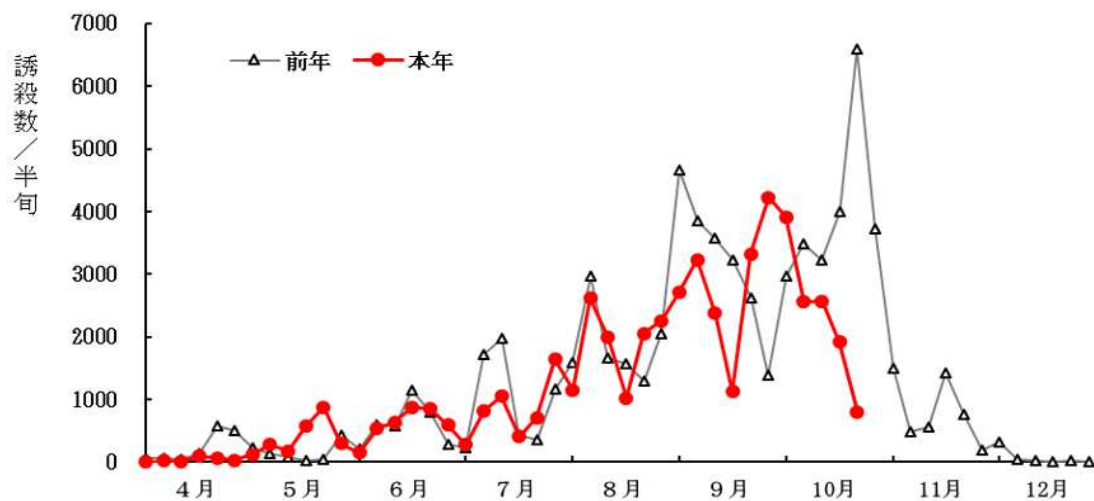
(イ) 若齢幼虫は集団で表皮だけを残して食害（白変葉）するので、発生の目安にする。

(ウ) 卵塊や分散前の若齢幼虫を発見したら、速やかに寄生葉を摘み取り処分する。

(エ) 老齢幼虫に対する農薬の効果は低いので、若齢幼虫のうちに防除する。

(オ) ジアミド系農薬に対して感受性低下が認められる。他の使用農薬も含め、散布後の効果を確認する。





フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺状況 (鹿屋市)

※令和6年度から調査

(2) シロイチモジヨトウ

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
(イ) 対象作物 キャベツ, エンドウ類, キク等
(ウ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：並～やや多

作物名	発生ほ場率 (%)			総合概評
	本年	前年	平年	
キャベツ	0	0	3	並
エンドウ類	50	38	16	やや多
キク	0	0	2	並

9～10月のフェロモントラップ誘殺数：並

	南さつま市	鹿屋市
発生量	並	並*
誘殺数 (9月5半旬～10月4半旬)	107頭 (平年147頭)	39頭 (前年30頭)

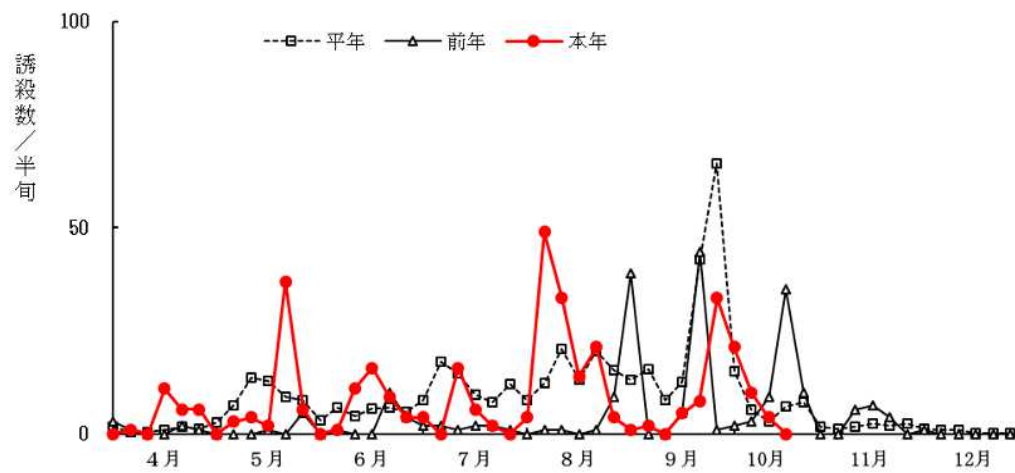
*鹿屋市は令和6年度から調査地点を変更したため、前年比による概評を記載

(イ) 気象予報

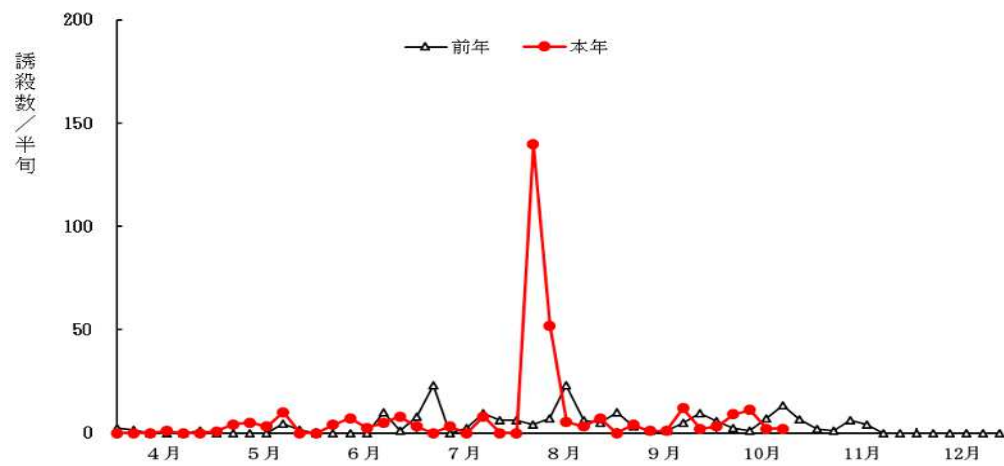
気温：高い (+)

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 発生状況は、作物や各地域で異なるため、ほ場を見回り、幼虫の発生状況を確認する。
(イ) 若齢幼虫は集団で表皮だけを残して食害 (白変葉) し、特にエンドウ類では葉を綴り合わせて食害するので、発生を目安にする。
(ウ) 卵塊や分散前の若齢幼虫を発見したら、速やかに寄生葉を摘み取り処分する。
(エ) 老齢幼虫に対する農薬の効果は低いので、若齢幼虫のうちに防除する。
(オ) 一部のジアミド系農薬 (クロラントラニリプロール, フルベンジアミド) に対して感受性低下が認められる。他の使用農薬も含め、散布後の効果を確認する。



フェロモントラップによるシロイチモジヨトウの誘殺状況（南さつま市）



フェロモントラップによるシロイチモジヨトウの誘殺状況（鹿屋市）
※令和6年度から調査

V. 果 樹

1. カンキツ

(1) かいよう病

ア 予報内容

(ア) 発 生 量

県本土・熊毛地域（果実） 多
奄 美 地 域（果実） やや多

イ 予報の根拠

<県本土・熊毛地域>

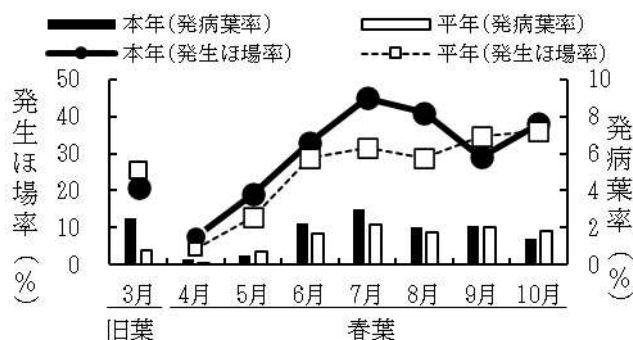
(ア) 調査結果

春葉		果実	
発 生 量	並	多	
発生ほ場率	38.0%（平年 36.0%）：並	71.0%（平年 33.0%）：高い	
発 病 率	1.4%（平年 1.9%）：並	3.0%（平年 2.1%）：やや高い	
発 生 程 度	—	発生程度は高い（+）	

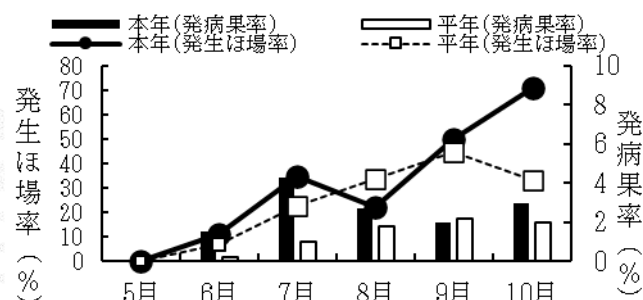
(イ) 気象予報

気 温：高い（+）

降水量：平年並みか多い（+）



かいよう病の発生ほ場率と発病率
（県本土・熊毛）



かいよう病の発生ほ場率と発病率
（県本土・熊毛）

<奄美地域>

(ア) 調査結果

春葉		果実	
発 生 量	並	並	
発生ほ場率	14.0%（平年 16.0%）：並	14.0%（平年 10.0%）：並	
発 病 率	0.1%（平年 0.1%）：並	0.3%（平年 0.2%）：並	
発 生 程 度	—	—	

(イ) 気象予報

気 温：高い（+）

降水量：平年並みか多い（+）

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 感染源となる罹病葉を少なくするために、罹病した夏秋梢やミカンハモグリガの食害を受けた夏秋梢はせん除する。

(2) 黒点病

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県内全域

(イ) 発生量

県本土・熊毛地域(果実) 多

奄美地域(果実) 並

イ 予報の根拠

<県本土・熊毛地域>

(ア) 調査結果 発生量 : 多

発生ほ場率 81% (平年 65 %) : 高い

発病果率 3.2% (平年 13.1%) : やや低い

(イ) 気象予報

降水量 : 平年並みか多い (+)

<奄美地域>

(ア) 調査結果 発生量 : 並

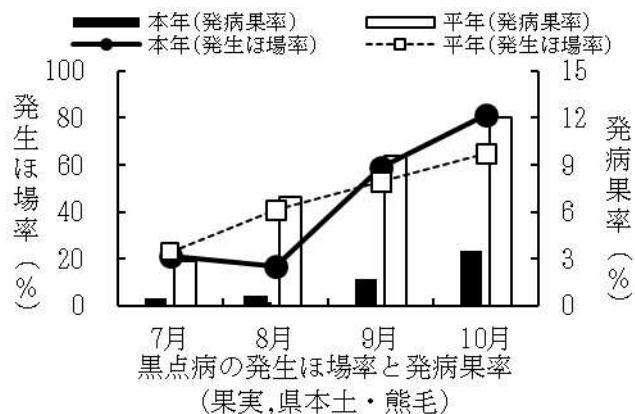
発生ほ場率 : 0 % (平年 7 %) : 並

発病果率 0 % (平年 0.6%) : 並

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 多雨が予想される場合には予防散布を行う。

(イ) 枯れ枝は伝染源となるため、こまめにせん除し、せん定枝は園外に持ち出して処分する。



(3) ミカンハダニ

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県内全域

(イ) 発生量

県本土・熊毛地域 多

奄美地域 多

イ 予報の根拠

<県本土・熊毛地域>

(ア) 調査結果(春葉) 発生量 : やや多

発生ほ場率 29% (平年 25%) : 並

寄生葉率 2.9% (平年 3.4%) : 並

発生程度の高いほ場を認めた (+)

(イ) 気象予報

気温 : 高い (+)

<奄美地域>

(ア) 調査結果(春葉) 発生量 : 多

発生ほ場率 43% (平年 4 %) : 高い

寄生葉率 3.7% (平年 0.4%) : 高い

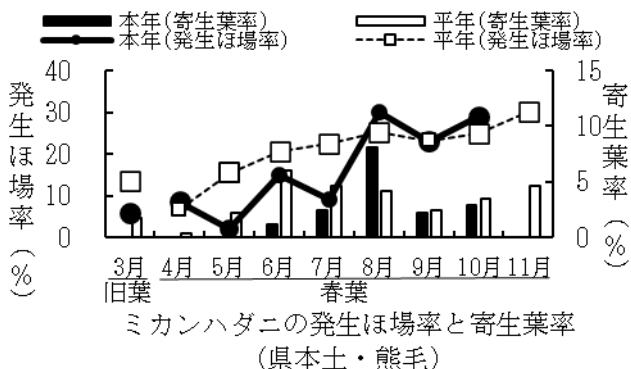
(イ) 気象予報

気温 : 高い (+)

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 1葉当たり雌成虫数 0.5~1.0頭(寄生葉率で30~40%)を目安に防除する。

(イ) 作用性の異なる農薬(RACコード参照)のローテーション散布を行う。



(4) 果実吸蛾類

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県内全域

(イ) 発生量

県本土・熊毛地域 多

奄美地域 やや多

イ 予報の根拠

<県本土・熊毛地域>

(ア) 調査結果 発生量 : やや多

発生ほ場率 30% (平成 20%) : やや高い

(イ) 気象予報

気温: 高い (+)

<奄美地域>

(ア) 調査結果 発生量: 並

発生ほ場率 0% (平成 0%) : 並

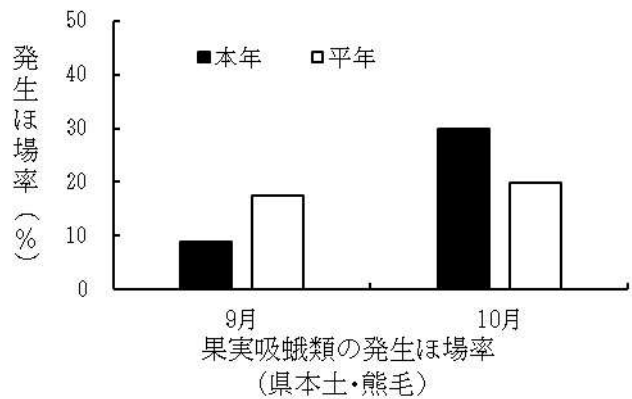
(イ) 気象予報

気温: 高い (+)

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 夜間に活動し、夜温が高いと 11 月以降も飛来するため、ポンカンや津之輝等では被害を受けやすい。

(イ) 防蛾網 (7.5~10mm 目) で被覆するほか、黄色忌避灯を主体とした集団点灯を行う。



防除に関する今月の留意事項

【カンキツ】

1. サビダニ類

県内のほぼ全域に生息するリュウキュウミカンサビダニは、秋季以降も果実上で加害し続けるため、果実の被害を確認したら直ちに防除する。

2. 貯蔵病害 (青かび病, 緑かび病)

収穫時の気温が高く降雨が多いと腐敗果が発生しやすい。

(1) 貯蔵を要する普通温州や中晩柑類は収穫前に必ず防除する。

(2) ベルクートフロアブルを使用する場合は、ベンレート水和剤と混用散布すると防除効果が高まる。

(3) 防除薬剤は収穫予定日を想定し、収穫前日数に注意して選定する。また、散布にあたってはラベルを確認し、使用基準を厳守する。

(4) 収穫時には果実に傷をつけないように手袋を使用し、果梗部の二度切りは丁寧に行う。

VI. 茶 樹

1. チャ

(1) カンザワハダニ

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

(イ) 発生量 並

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：並

発生ほ場率 33% (平年 37%)

：並

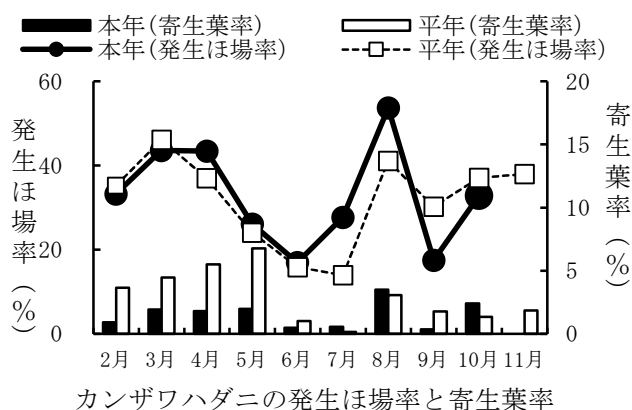
寄生葉率 2.4% (平年 1.3%)

：高い

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 越冬前のカンザワハダニの密度は翌春の発生量に大きく影響する。発生の多い園では秋整枝直後と11月中旬～下旬に防除を行う。

(イ) 農薬は、葉裏まで十分にかかるように散布する。



防除に関する今月の留意事項

1. チャトゲコナジラミ

10月中旬の発生ほ場率は本年 17% (前年 39%) で前年より少ない。多発するとは場一面に成虫が乱舞し、作業性を低下させるほか、幼虫が寄生した枝ではすす病が発生し光合成能力を低下させる。

(1) 秋整枝および裾刈りは、寄生葉を除去し密度低下が期待される。

(2) 発生の多い園では秋整枝後に農薬を葉裏まで十分にかかるように散布する。

(3) 本虫には天敵シルベストリコバチが有効なため、本天敵に影響の少ない農薬を使用する。

農薬の適正使用について

農薬は以下の点に注意して適正に使用しましょう。

1. 使用前にラベルや説明書をよく読む。

決められた対象作物・使用時期・回数・使用濃度等を守り、記載された用途、方法以外では使用しない。

2. 使用する農薬にあわせて、適切な防除衣、保護具（マスク・手袋等）を着用する。

3. 散布前には防除器具の整備・点検をする。

4. 体調がすぐれないときは散布作業を避ける。

5. 散布時には農薬がほ場の外に飛散したり、流出したりしないよう十分注意する。

6. クロルピクリン剤は、住宅地及び畜舎に隣接するほ場や、土壌が乾燥しているときは使用しない。注入後は直ちに穴をふさぎポリエチレンフィルム等で10日以上被覆する。

7. 毒性が強い農薬は、施設内や噴霧のこもりやすい場所では使用しない。

8. 使用期限の切れた農薬、不要になった農薬及び使用済みの空容器は適正に処分する。

9. 農薬は食品と区別し、鍵をかけて保管する。

10. 農薬の散布記録をつけておく。

「予報の根拠」の記載方法

○調査結果の発生量は、前月の巡回及び定点調査による。

○野菜類共通病害虫の発生量は、各作物での発生量やトラップ調査結果等に基づいた総合評価。

○調査結果や気象予報等の末尾の（＋），（－）は、発生量の増加，減少要因を示す。

○気象予報は、向こう1か月の長期予報。

○平年値は原則として過去10年間の平均値を使用。